

# Gemini 3.5 Flashが拓く「エージェント型」特許調査の未来



## GDPval-AA Elo 1656

### 実務遂行能力の飛躍的向上

従来のモデルを大きく上回る、実世界型タスクの評価スコア。ツール利用や文書生成能力の高さを示す。



## 長文脈処理

膨大な特許文献を一度に処理可能。長大な明細書、審査履歴、多数の引用文献を同時に読み解く。

## 高速・低遅延・低コスト

複雑な反復ワークフローに最適。エージェントを並列・反復的に動かす長期タスクに有利。

## 監督付きマルチエージェント・ワークフローの設計

専門エージェントの協調と人間の監督



**発明解析**  
(Invention Analysis)  
議題・構成・  
必須要素の抽出

必須ガードレール:  
人間による  
必須要素の承認



**検索戦略**  
(Search Strategy)  
キーワード・分類・  
検索式の生成

必須ガードレール:  
検索式と除外条件の  
ログ保存



**DB検索**  
(DB Search)  
特許・非特許文献の  
反復検索

必須ガードレール:  
DB取得文獻のみを  
後検に遡す



**スクリーニング**  
(Screening)  
一致度による検補の  
優先順位付け

必須ガードレール:  
模倣箇所のない  
判定の禁止



**クレームチャート**  
(Claim Chart)  
請求項要素と  
文献箇所に対応付け

必須ガードレール:  
罅落・固番号の  
引用を必須化



**品質監査**  
(Quality Audit)  
見落としや  
引用誤りの検出

必須ガードレール:  
別の検索戦略での  
再検証



人間による最終判断  
(Human-in-the-loop)

AIは「調査補助」、  
最終判断は専門家

新規性・進歩性の断定や法的解釈は、必ず弁理士や知財専門家がレビューする体制を構築。

## 性能指標と知財業務の関連性

評価軸	スコア	IP業務との関連・解釈
GDPval-AA	Elo 1656	特許調査報告書やクレームチャート等の実務成果物生成に直結。
MCP Atlas	83.6%	特許DBや社内システム、検索APIを連携するツール操作能力。
CharXiv Reasoning	84.2%	特許図面、フローチャート、実験データ表の読解・情報合成。
OSWorld-Verified	78.4%	特許検索プラットフォーム等のWeb UI操作の自動化。

## 段階的導入のフェーズ

フェーズ	期間目安	内容
PoC	2~4週間	過去案件10~20件での再現性・務度検証。
パイロット	1~3か月	特定技術分野でのマルチエージェントフロー運用。
本番化	3~6か月	社内システム・監査機能との統合、標準業務への定着。



## リスク管理と秘密情報保護

入力データの匿名化とセキュアな環境。未公開発明の入力には、エンタープライズ契約や閉域網、データの匿名化処理が不可欠。